DEVELOPMENT OF A SMALL ECR ION SOURCE WITH PERMANENT MAGNETS

K.Yoshida, T.Nara, Y.Saitoh, W.Yokota Japan Atomic Energy Research Institute 1233 Watanuki Takasaki Gunma, 370-1292

Abstract

The rising temperature of mirror magnets by coil heat changes the beam intensity of an ECR ion source. In order to improve the beam stability, we are developing an all-permanent-magnet ECR ion source with a microwave frequency of 14GHz which will provide highly charged ion beams of medium-heavy elements. Its mirror field can be changed by tuning magnets. The details of the source and the results of the test operation are described.

永久磁石型小型ECRイオン源の開発

1.はじめに

原研サイクロトロンは、13年間以上にわたり多種 多様なイオンを提供している。近年、サイクロトロ ンのビーム強度の変動が電磁石の鉄心温度上昇にあ ることを突き止め、その安定化を実施した。その結 |果、従来数十時間で10-4台であった磁場変動を10-5台 に抑え長時間の安定を実現した。これにより磁場を 再調整することなく安定したビーム供給が可能と なった[1]。一方、イオン源から引き出されるビーム 強度の安定性を高めることは、サイクロトロンの加 速ビームの安定につながるとともに、加速器の調整 時間の短縮を可能にする。現在のサイクロトロンに は重イオン生成用[2],金属イオン生成用の2台の ECRイオン源が設置されているが、これらイオン源 から引き出されるビームには時間的な強度の変動が あり、ミラーコイルの発熱が主な原因と考えられる。 そこで全ての磁場を永久磁石により形成させるECR イオン源の開発に着手した。本報告では、このイオ ン源の基本設計と試験運転結果について述べる。

2.基本設計

2.1 ミラーおよび六極磁石

Fig.1に永久磁石型小型ECRイオン源の概略を示す。 原研AVFサイクロトロンが加速できるのは、 M/Q=6.5(M:質量数,Q:価数)以下のイオンであるこ とから、軽イオンだけでなく中重元素の多価イオン の生成も行えるように、マイクロ波周波数を 14GHz(B_{ECR}=0.50T)とした。また磁場設計には磁場 計算コードOPERA3Dを用いた。

ミラー磁場については強い残留磁束密度と保磁力 の点からN48H(信越化学工業㈱)を選択し、ガス導入 側及び引き出し側ともに、最大ミラー磁場B_{MAX} =0.80T(1.6B_{ECR}),最小ミラー磁場B_{MIN}=0.32T,ミラー 比B_{MAX}/B_{MIN}=2.5とした。またミラー磁場分布を変化 させるため、ミラー磁石の内側に着脱可能なミラー







Figure 2: Cross sectional view of the mirror tuning magnets and the hexapole magnet.

磁場調整用磁石を置き、B_{MAX}=0.88T (1.76B_{ECR}), B_{MIN}=0.22T, B_{MAX}/B_{MIN}=4.0と変えられるようにした。 六極磁場においてもできるだけ高い磁場強度が求 められるが、ミラー磁石と同じN48Hを用いてプラ ズマチェンバーの温度上昇から磁石温度が45 にな ると仮定すると、数%減磁することが判った。そこ で六極磁石の着磁方向(着磁方向45°)と相反する向き となる調整用磁石をFig.2のように非磁性体(SUS316) にし、さらに耐熱性の高いN44MHを選択した。 チェンバー表面における径方向の磁場強度は0.80T となった。Table 1に主要パラメーターを示す。

F -		
Microwave:		
	Frequency	14GHz
	Maximum power	125W
Mirror magnet:		
	Material	NeFeB
		(N48H)
	Length	240mm
	Outer diameter	182mm
	Inner diameter	41mm
	Maximum field strength	0.88T
	Minimum field strength	0.22T
Hexapole magnet	:	
	Material	NeFeB
		(N44MH)
	Length	120mm
	Outer diameter	102mm
	Segment	12piece
	Inner diameter	41mm
	Radial field at 16mm	0.80T
Plasma chamber:		
	Outer diameter	39mm
	Inner diameter	32mm
	Material	SUS316

Table 1: Specification of the ECR ion source.





Figure 4: Radial magnetic field distribution.

Fig.3およびFig.4にミラー磁場, 六極磁場の計算結 果と磁気回路の実測結果を示す。計算による共鳴領 域は長さ110mm, 直径25.4mmであるが、実測値は 長さ109mm, 直径25.8mmであった。また磁場分布 は B_{MAX} =0.86T(1.7B_{ECR}), B_{MIN} =0.20T, B_{MAX}/B_{MIN} =4.3で あった。ミラー磁場調整用磁石を取外した場合では 実 測 の 長 さ は 90mm と な り 、 B_{MAX} =0.80T (1.6B_{ECR}), B_{MIN} =0.32T, B_{MAX}/B_{MIN} =2.5であった。

2.2 マイクロ波アンプおよびプラズマチェンバー

マイクロ波発振器には周波数安定度が高く、低ノイ ズとする為DRO(Dielectric Resonator Oscillator)を使用 した。またマイクロ波アンプには最大出力125Wの TWT(Traveling Wave Tube)を採用した。プラズマ チェンバー(SUS316製)は冷却水路を持つ内径 32mm外径 38.5mmの2重管構造とした。

3.試験運転結果

ミラー磁場調整用磁石をはずした状態でアルゴン ガスを導入し、TWT出力10Wでプラズマを生成し、 6kVでイオンを引き出した。得られたビームスペク トルをFig.5に示す。Ar⁶⁺は300nA,Ar⁹⁺は30nAであ る。引出系の最適化を行うことによりビーム電流が 増加するものと期待している。



Figure 5: M/Q spectrum for the test

4.今後の予定

引き出し系の最適化を行いビーム電流の増加を図 るとともに、ミラー磁場調整用磁石を据付た場合の 効果を検証する。

参考文献

- S. Okumura, et al., "Temperature control of a cyclotron magnet for stabilization of the JAERI AVF cyclotron beam", Proc. 16th Int. Conf. on Cyclotron and their Applications, East Lansing, USA, 330 (2001).
- [2] T. Nara, et al., "Status of ECR ion Source at JAERI", Proc. 9th Symp. on Accelerator Science and Technology, Tsukuba, Japan, 89 (1993).